

## 三条市租税教育推進協議会長賞

### 税と教育

三条市立本成寺中学校 三年 笹川 暖人

ささがわ はると

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」

これは、ふと、教科書の裏表紙を見たときに書いてあった言葉だ。これをはじめて見たとき、税金？税金って、どんなのだっけ？と、文中の「税金」という単語が目に残った。税金のことなんて消費税ぐらいしか知らなかったし、どのように使われているかもよく分からなかった。しかし、分からないながらも、この制度にどのような目的があるのだろうか、なぜこのようなことができるのだろうか？と様々な疑問がわいた。そこで、教科書の支給を無償で行う「教科書無償給与制度」について調べてみることにした。

まず、この制度の目的について調べた。これは、日本国憲法第二十六条の規定に基づいて、昭和三十八年から始まったそうだ。保護者が教科書を購入する費用を国が負担し、すべての子どもが平等に教育を受けられるようにすることが主な目的らしい。また、これには、将来を担う子どもたちにより良い社会をつくってほしいという願いも込められていることが分かった。

次に、教科書無償給与制度ができる理由について調べた。令和七年度の国の歳出を見てみると、歳出総額は約百五兆二千億円で、そのうちの約五兆六千億円、つまり総額の五パーセントほどが教

育のために使われていることが分かった。このお金のおかげで教科書を子どもたちに支給できるというわけだ。五兆六千億円という巨額が私たちの教育のために使われていることにとっても驚いた。

調べた結果、教科書無償給与制度は、私たちが不自由なく教育を受けられるように、たくさんのお金を使って行われていることが分かった。これを受けて、これまでの教科書の使い方を見直さなければならなかった。今までの扱い方を振り返ると、少し乱雑に使っていたような気がする。でも、これからは、もっと丁寧に扱おうと思う。また、国が教科書の購入費を負担するための税金を払ってくれるすべての人への感謝も忘れてはいけない。私をもっと大きくなつて、もっと多くの税に関わるようになったら、今度はその人たちへの恩返しの手続きと次世代の子どもたちへの期待の気持ちを込めて税を払い、社会をより良くするために貢献したい。そのためのまず第一歩として、三月に高校受験が控えている。志望校に合格できるよう、これまで支給されてきた教科書を存分に使い、より一層勉学に励んでいきたい。